2019年10月号
ぴらたんニュース

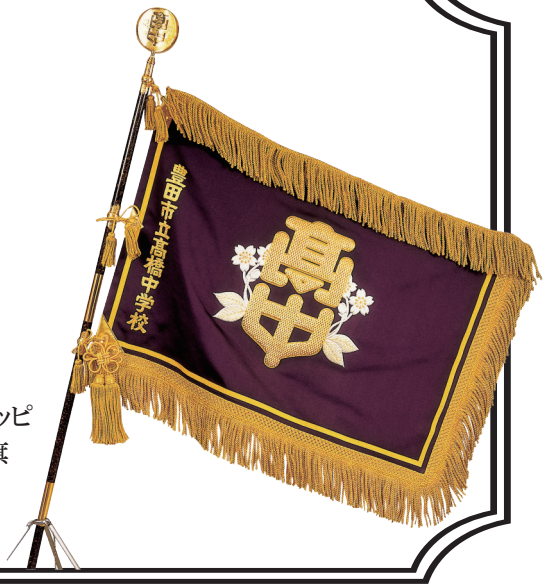
京都にちなんだ話題をお届けします
京style

～まねき～

毎年12月に南座で顔見世が行われるのは、江戸時代、歌舞伎の1年が旧暦の11月から翌年10月までだったことに由来します。役者の契約が10月末で切れたため、11月が歌舞伎の正月にあたり、舞台で新しい座組を披露したのが顔見世です。この顔見世興行に欠かせない縁起物の代表が「まねき」です。長さ約1.8m、幅約30.3cmのヒノキの板に、勘亭流という芝居用の書体で、役者の名前が書かれています。独特の太く隙間のない文字には「隙間なくぎっしりお客様が入りますように」との願いが込められ、公演の成功を祈って掲げられます。よく見ると、まねきの板の上の部分が「入」のような形になっています。これもまた、お客様がたくさん入りますように、ということです。南座の正面にずらりと掲げられたまねきを見上げるのは壮観です。また、南座の屋根の上にはシンボルでもあり、興行のしるしともいえる櫓（やぐら）があり、その正面には、白い御幣「梵天」が2本立っています。これは劇場に神を招くための「神の依り代」で、毎年顔見世の度に新たに作り替えられます。この梵天が、無事に興行できるよう常に見守ってくれているといわれます。まねきは毎年11月の初めに書き始められ11月末の顔見世興行に合せて「まねき上げ」が行われます。
何かと忙しい時期ですが、少し南座の前に立ち、人々の願いが込められた「まねき」を見上げるのも良いかもしれませんね。

HIRAIWA

学校の象徴に欠かせない 学校旗
消防団の士気に欠かせない 消防団旗
勝利の証に欠かせない 優勝旗



【取扱商品】
応援団用品　のぼり　染め旗　横断幕　のれん　手拭い　ハッピ
太鼓　祭礼幕　ちょうちん　神社仏閣幕　神社のぼり　社名旗
鈴緒　劇団幕　マーチングバンド横幕　タスキ　腕章
ピンバッジ　缶バッジ　ワッペン　演台カバー

株式会社 平岩
〒604-0907　京都市中京区河原町通竹屋町上ル大文字町 241
TEL ：075-222-1041 / FAX：075-222-0843
MAIL：web@kyoto-hiraiwa.co.jp

今すぐアクセス！ 京都 平岩

※ 配信停止をご希望の方はお手数ですが
「配信停止」と記入いただき、ご返信ください